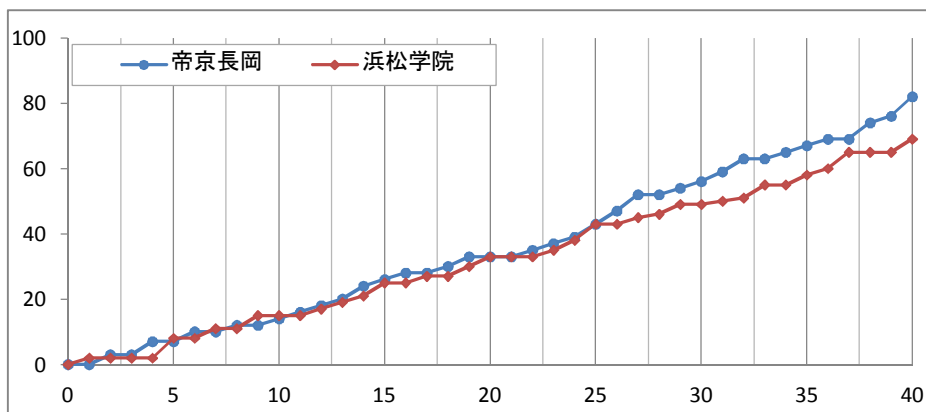


平成25年度全国高等学校総合体育大会バスケットボール競技 第66回全国高等学校バスケットボール選手権大会

男子 1回戦	帝京長岡 82	14 - 15	69	浜松学院
主審 渡邊 浩二	(新潟) ○	19 - 18	●	(静岡)
副審 寺田 祥		23 - 16		
		26 - 20		
		—		

No. 29e4 日時: 2013年7月29日(月) 14:30 会場: 大分県立総合体育館



帝京長岡

No.	選手氏名	得点	3P	2P	FT	F
4	櫻井 涼	-	-	-	-	-
5	* 高田 大地 (C)	9	1	3	0	4
6	谷内 亮太	4	0	2	0	2
7	* 田村 大樹	26	0	11	4	2
8	* 山本 健太	11	1	4	0	0
9	庭野 太郎	8	0	4	0	1
10	* 長谷川 大聖	6	0	3	0	0
11	* 刘 子澍	0	0	0	0	3
12	平櫛 大樹	0	0	0	0	0
13	袁 權	-	-	-	-	-
14	桃井 一翔	16	1	6	1	1
15	大久保 琳司	2	0	1	0	1
コーチ	柴田 勲					
合計		82	3	34	5	14

浜松学院

No.	選手氏名	得点	3P	2P	FT	F
4	* 鈴木 勝也	6	0	2	2	1
5	* 東 祐太 (C)	20	0	9	2	1
6	* 太田 大誠	14	4	1	0	0
7	* 雲井 峻平	25	5	5	0	3
8	三浦 広大	-	-	-	-	-
9	* 阿形 勇輝	4	0	2	0	1
10	武田 ケンジ	-	-	-	-	-
11	皆川 拓	-	-	-	-	-
12	岡本 洸貴	-	-	-	-	-
13	高木 隆太	0	0	0	0	1
14	堀江 健太郎	-	-	-	-	-
15	河野 大樹	-	-	-	-	-
コーチ	森下 貴之					
合計		69	9	19	4	7

*...スターター (C)...キャプテン 3P...3点シュート 2P...2点シュート FT...フリースロー F...ファウル

戦評

第1ピリオド、序盤両チームとも厳しいハーフコートのマンツーマンDefでスタート。開始早々、浜松学院の#7が先制。更に浜松学院は24秒オーバータイムを取るなど激しいDefを見せる。帝京長岡も負けじと#7のジャンプシュートで反撃すると、浜松学院も#7の連続3Pですかさず反撃、まさに一進一退の攻防となり、熱戦を予感させる第1ピリオドが14-15の浜松学院1点リードで終了。第2ピリオドも長岡帝京は#7のジャンプシュート、浜松学院は#5の連続得点などで両者譲らず手に汗握る展開が続く。ピリオド終盤も浜松学院の#7が3Pを決め30-30、すかさず帝京長岡の#8の3Pで33-30とするが、また浜松学院の#6が3Pを決め返し33-33で第2ピリオドが終了。互いに一歩も引かない展開が、まさに観客を引き付ける熱戦となった。

第3ピリオド、互いに堅いDefで開始1分間は互いにノーゴール。両者一歩も譲らずの展開が残り5分で43-43の同点。しかしながら、帝京長岡の#14のスティールからの速攻に対し、浜松学院がアンスポーツマンライクファウル。フリースローとスローイン後にも得点を決められ、一気に流れが帝京長岡に傾き、3分11秒52-45となったところで浜松学院はたまたまタイムアウトを請求。浜松学院は#5の連続得点で反撃するが、帝京長岡は#15のブザービーターでピリオドの最後に得点し56-49で終了。第4ピリオド、先手を取ったのは浜松学院であったが、帝京長岡の#14のスティールから得点で61-50、この試合初めての2桁の得点差となった。浜松学院も#4のフリースローや#7の3Pなどで必死に反撃するが、帝京長岡も反撃、得点差は縮まらず残り4分34秒69-58となったところで浜松学院はタイムアウト。開けて#6の3Pや#5のゴール下で追い上げ、69-65となったところで今度は帝京長岡がタイムアウト。これで落ち着きを取り戻した帝京長岡は#7や#14が得点を重ね、最後は80-68で試合終了。試合後は会場から、勝利した帝京長岡にも、そして最後まで諦めずに戦った浜松学院にも温かい拍手が送られた。

© 2011 Yuzo Kosaka All Rights Reserved Vol.007a

記事者 首藤 謙治 (所属) 大分県バスケットボール協会